



府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
徳島県		<p>2) 風流おどり起源説 阿波おどりの特色である組おどりが、能楽の源流である「風流」の影響を強く受けているといわれ、寛文3年(1663年)の「三好記」に、天正6年(1578)年に十河存保が勝瑞城で風流おどりを開催したという記述があり、これが阿波おどりの原型、とする説。</p> <p>3) 盆おどり起源説 阿波おどりが旧暦の7月に行われた盆おどりであるというもので、「俄」「組おどり」といった特殊なものが派生してきたとはいえ、その元は盆おどりである、とする説。</p>
	<p>佐田神社秋季例大祭（だらだら祭り） （阿南市）</p> <p>佐田神社（徳島県阿南市椿泊町東 95） 問合せ先：阿南市役所文化振興課 0884-22-1798</p>	<p>紀伊水道に展開していた、阿波水軍の長であった森家の功績を讃えるとともに、豊漁を祈願するお祭りである。男たちが神輿を担いで何度も海の中に入り、大漁を祈る。また、神輿を船に乗せて対岸の神社まで赴き、大漁と海上安全を祈願する。その際には大漁旗を掲げた漁船団が先導し、湾内をパレードのように行進する。</p> <p>現在は祭りの期間が決められている（9月中旬の週末）が、過去には具体的な祭りの期間がなく、1ヶ月近くだらだらと祭りが続いたという逸話があるため、通称「だらだら祭り」と呼ばれている。</p>
		

### 備 讃 瀬 戸

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
岡山県	<p>西行まつり（玉野市）</p> <p>公益社団法人玉野市観光協会 〒706-0002 岡山県玉野市築港 1-1-3 TEL：0863-21-3486 FAX：0863-32-3331</p>	<p>平安時代から鎌倉時代の僧侶であり歌人である西行法師が、諸国をめぐる旅の中で、白砂青松の美しい渋川海岸に立ち寄ったことを記念して「西行まつり」が開催されている。</p> <p>西行法師についての話や西行うどんがふるまわれる他、西行法師ゆかりの地をめぐるクイズラリーなど西行を偲びながら毎年3月初旬に、玉野市渋川海岸において開催される。</p>
		

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
岡山県	<p>乙島祭り（戸島神社秋季例大祭）（倉敷市）</p> <p>※倉敷市無形民俗文化財</p> <p>乙島祭り保存会            問合せ先：倉敷市役所 086-426-3030  <a href="http://www.city.kurashiki.okayama.jp/otoshimamatsuri/">http://www.city.kurashiki.okayama.jp/otoshimamatsuri/</a></p> 	<p>倉敷市玉島乙島の戸島神社の秋季例大祭のことであり、約700年の歴史があるといわれている。明治以前の御神幸は養父母大明神（戸島神社の旧名）、八幡宮が別々に行われていたが、明治4年（1871年）に合祀され戸島神社と呼ばれるようになった。明治までは、乙島村の「志あげまつり」と呼ばれていたが、昭和43年（1968年）より10月最後の土、日曜日と定められ、今日に至っている。</p> <p>祭りは、担ぎ棒に布団と太鼓台をのせた千歳楽（8台）、だんじり（1台）とともに、お舟（3台）と呼ばれる2本の担ぎ棒の上部に舟型をのせた大場物が朝5時ごろ神社境内に参集し、御霊移しの神事の後に御神輿を先頭に出発し、一日かけて各町内を巡行する。夕方、御神輿と大場物が神社へ戻ってくると祭りは佳境に入り、勇ましいかけ声とともに170段の急な石段に沿って大場物を担ぎあげる姿は誠に壮観である。</p> <p>このように乙島祭りは、近世末期の祭礼の要素を残しつつ、地域の特性である海の歴史を反映したものととして次代へと引き継がれている。</p>
	<p>おしぐらんど（笠岡市）</p> <p>※笠岡市指定重要無形民俗文化財</p> <p>おしぐらんど保存会            笠岡市役所 経済観光活性課            TEL：0865-69-2147            E-mail：  <a href="mailto:keizaikankou@city.kasaoka.okayama.jp">keizaikankou@city.kasaoka.okayama.jp</a>            URL：<a href="https://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/28/b-osigura.html">https://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/28/b-osigura.html</a></p> 	<p>「おしぐらんど」は2艘の和船で競漕する行事で源平合戦に由来する行事ともいわれる。旧暦5月5日に近い日曜日に挙行される。</p> <p>櫓を漕ぐことを、櫓を「押す」と言い、「ぐらんど」はこの地方で走り競争のことを「かけりぐらんど」ということから、おしぐらんどとは「船漕ぎ競争」という意味になる。</p> <p>当日は金浦地区を東西に分け、それぞれの組の和船に6人ずつ乗りこみ、源氏方（白）・平家方（赤）にわかれて、金浦湾の沖合いから陸の方をめざして先を争う。漁業者の減少から一時は中止となったこともあったが、廃絶を惜しむ地元の努力により、昭和62年（1987）に復活し、盛大に挙行されている。</p>
	<p>神島（こうのしま）天神祭（笠岡市）</p> <p>※笠岡市指定重要無形民俗文化財</p> <p>笠岡市役所経済観光活性課            TEL：0865-69-2147            E-mail：  <a href="mailto:keizaikankou@city.kasaoka.okayama.jp">keizaikankou@city.kasaoka.okayama.jp</a></p>	<p>神島7地区の千歳楽（せんざいらく：太鼓台）が、「島の天神」に集まる賑やかな秋祭りである。7つの地区とは、神東、中村、汁方、福浦、高、寺間、見崎である。現在では、9月第3日曜日に挙行される。もともと神島は離島であり、千歳楽は船を使って海から天神社に集まっていた。その後、笠岡湾干拓によって本土と陸続きになり、船が使えなくなった地区では、車を使った陸送へと変化したが、いくつか</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
岡山県	URL: <a href="https://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/28/b-tenjin.html">https://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/28/b-tenjin.html</a> 	この地区では、船による「お渡り」を継承・復活させている。全地区の千歳楽が天神社に揃ったときに行われる「総担ぎ」も見どころの一つである。
	白石踊（笠岡市） ※国指定重要無形民俗文化財 白石踊保存会 笠岡市役所経済観光活性化課 TEL：0865-69-2147 E-mail: <a href="mailto:keizaikankou@city.kasaoka.okayama.jp">keizaikankou@city.kasaoka.okayama.jp</a> URL <a href="http://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/28/b-siraisio.html">http://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/28/b-siraisio.html</a> 	白石島は岡山県笠岡市沖合いの大小 30 余りの島々からなる笠岡諸島のひとつ。国立公園に指定されている周囲約 10 キロの島には 500 人余りの人々が生活している。 白石踊は源平の合戦で戦死した人々の霊を吊うために始まったと伝えられる踊りで、もとは回向（えこう）踊りと呼ばれていた。毎年 8 月 14 日～16 日の 3 日間、公民館前の広場で、盆踊りとして伝えられている。同踊りは口説（くどき）の歌と大太鼓による一曲の音頭に合わせて、男踊・女踊・奴踊・笠踊などそれぞれ異なった振り付け（13 種類）と衣装で一つの輪になり渾然一体となって、勇壮活発、豪華絢爛に踊られる。岡山県下三大踊りの一つとされている。 昭和 51 年（1976 年）には国の重要無形民俗文化財に指定され、白石踊保存会が中心となって同踊りの保存と継承に努めている。なお、7 月下旬～8 月上旬の毎土曜日には観光客向けに、夕方から海水浴場の砂浜で披露されている。
	北木島の流し雛（笠岡市） ※笠岡市指定重要無形民俗文化財 笠岡市役所 経済観光活性化課 TEL：0865-69-2147 E-mail： <a href="mailto:keizaikankou@city.kasaoka.okayama.jp">keizaikankou@city.kasaoka.okayama.jp</a> URL: <a href="https://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/28/b-nagasi.html">https://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/28/b-nagasi.html</a> 	北木島大浦の海岸で、旧暦 3 月 3 日の満潮時、紙雛を乗せた小舟を海に流す伝統行事である。小麦わら、または厚紙を利用して小舟（うつろ舟）を作り、帆を立てる。その中に、毎月 1 体つくってためた 12 体の紙雛（閏年は 13 体）と、前後に船頭を乗せる。これにアサリ寿司や桃の花の小枝などを添えて、浜辺から海へと流す。 雛を送るのは女の人で、この雛に悩みや病気を託し、また家族の安全や子供の健やかな成長を願って、昼の満潮に乗せ、引き潮とともに「加太へ帰って下さい」と唱えながら流す。一説には、この行事が始まって、かれこれ 300 年にもなるという。 和歌山市加太にある淡嶋神社の信仰にもとづく行事で、もとは各家庭でめいめいに流していたが、現在では観光行事化し、大浦の浜から一斉に流している。なお、大浦の荒神社のそばに、淡島様の小さな祠が祀られている。

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
岡山県	<p>真鍋島の走り神輿（笠岡市）</p> <p>※笠岡市指定重要無形民俗文化財</p> <p>笠岡市役所経済観光活性化課 TEL：0865-69-2147</p>  <p>E-mail: keizaikankou@city.kasaoka.okayama.jp URL: <a href="https://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/28/b-hasiri.html">https://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/28/b-hasiri.html</a></p>	<p>真鍋島で一年に一度行われる「走り神輿」は300年以上前から行われている伝統行事である。八幡神社の行事で、3体の神輿が島の通りを猛烈な勢いで駆け抜ける勇壮な祭りである。もともと秋祭りとして行われていたが、近年では毎年5月3日～5日の3日間に行っている。</p> <p>祭りは、宵宮、本祭り、おかえりを3日間かけて行われる。3体の神輿それぞれに、輿守と呼ばれる担ぎ手8人とまとめ役の警護1人がつく。神輿を担ぐ前には必ず棒術と獅子舞を行い、危険な個所を清めてから神輿を出す。八幡神社から下りた神輿が前の浜で飾り立てた漁船に乗せられ、海を渡って本浦地区に上陸し、その後、島の通りを駆けぬけるところが最大の見せ場である。海の安全や豊漁を願う元禄年間（1688～1704年）に始まった。</p>
広島県	<p>鞆の浦観光鯛網（福山市）</p> <p>※福山市無形民俗文化財</p> <p>公益社団法人福山観光コンベンション協会 TEL：084-926-2649 E-mail：kyokai@fukuyama-kanko.com URL： <a href="http://www.fukuyama-kanko.com/event/taiami/index.html">http://www.fukuyama-kanko.com/event/taiami/index.html</a></p> 	<p>鞆の浦の初夏の風物詩、観光鯛網。鯛網は、鞆の浦に約380年伝わる伝統漁法である。外洋で冬を過ごした鯛は初夏、豊後水道・紀伊水道を抜けて、産卵のため波穏やかな瀬戸内海中央部の鞆の浦沖へとやってくる。江戸時代初期までは陸地よりの地引網漁法であったが、いつしか産卵に来る魚群を待ち構えて捕えることが考案された。</p> <p>航海の安全と大漁を願う樽太鼓と大漁節が浜中に響き、弁財天の使いの乙姫が大漁祈願の舞を踊り、手船という小さな船で弁財島の弁財天に祈願して出漁する。古式そのままに網がしぼられ、参加者は潮風に吹かれながら、海の上から漁の様子を見学する。往時の姿をそのまま今に伝える観光鯛網は、見る人の心に深い感動を与えることでしょう。観光鯛網は、毎年5月頃に開催される。</p> <p>（公益社団法人福山観光コンベンション協会HPより抜粋）</p>
	<p>鞆の浦のお手火神事（福山市鞆）</p> <p>※福山市無形民俗文化財</p> <p>沼名前（ぬなくま）神社 TEL(084)982-2050</p>	<p>お手火神事は、沼名前神社で行われる祇園祭の神輿渡御の前夜に行われる清めの神事で近世から周辺商人・漁民が多く参加してきた。海上安全を祈願し、夏祭の境内・町内の清祓、氏子・参拝者の病氣厄払いとして7月第2日曜日の前夜に斎行される。</p> <p>肥松を青竹で包まれた約150kgの大手火（松明）</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
	 <p>URL :  <a href="http://www.fukuyama-kanko.com/event/eve012.html">http://www.fukuyama-kanko.com/event/eve012.html</a></p>	<p>を3体作り、神門の前に立てたのち、夜に火がつけられる。この松明を拝殿までの大石段を担ぎ上げる勇壮な火の祭典で、福山市無形民俗文化財に指定されている。</p> <p>商人・漁民は、海上で病気になると大手火の炭と幸の水を混ぜて飲むと治るとか、海上で方向を見失ったときは断片を燃やした煙に導かれて港に帰ってこられたなど、町民を始め多くの人々の信仰を集めている祭りである。</p> <p>この『お手火祭り』は、「鞍馬の火祭り」（京都・由岐神社）、「那智の火祭り」（和歌山・熊野那智大社）と並ぶ日本三大火祭りに数えられおり、その起源も中世以前にさかのぼると伝えられている。</p>
香川県	<p>本島泊の虫送り(丸亀市)</p>  <p>URL :  <a href="http://honjima2.blogspot.jp/2011/07/blog-post.html">http://honjima2.blogspot.jp/2011/07/blog-post.html</a></p>	<p>本島(丸亀市)の泊では、毎年7月に木鳥神社にある集会場に人びとが集まり、虫送りの行事が行われる。まず大数珠をくり念仏を唱えてから、麦わらでつくった船とムラ境に立てる「百万遍」の道切り札をつけた青竹をもち、集落を巡りながらムラ境にお札を立て、途中で捕まえた虫を船に入れて、海に流す。</p> <p>過疎高齢で行事の継続が年々厳しくなっている。また島内で麦の栽培が行われなくなったため、船は木の板などでつくられるようになった。</p>
	<p>金毘羅参り（琴平町）</p> <p>金刀比羅宮  住所：〒766-8501 香川県仲多度郡琴平町 892-1  TEL：0877-75-2121（社務所）</p>  <p>E-mail : <a href="mailto:hisyo@konpira.or.jp">hisyo@konpira.or.jp</a>（秘書室）  URL :  <a href="http://www.konpira.or.jp/menu/master/menu.html">http://www.konpira.or.jp/menu/master/menu.html</a></p>	<p>「こんぴらさん」の名で親しまれている金刀比羅宮は、仲多度郡の琴平山（象頭山）に鎮座し、往古には大物主神（おおものぬしのかみ）を祀り「琴平宮（ことひらのみや）」と称し、永万元年（1165年）相殿（あいどの）に崇徳天皇（すとくてんのう）を合祀した。</p> <p>今も、農業・漁業・医薬・技芸など広汎な御神徳を持つ神様として、全国の人々の厚い信仰を集めている。浪曲「清水次郎長伝」の中にある「石松代参」もこの金毘羅参りである。</p> <p>明治以前には、江戸を中心とした関東地方に飼犬を代わりに参拝させた“こんぴら狗”という習俗があった。犬は金毘羅参りの道中、多くの人々の世話を受けながら、主人の代参を立派に務めたという。</p> <p>また、金刀比羅宮は瀬戸内海を行き来する船、または船で暮らす（生業とする）人には、海での安全を祈願して、「流し樽」（流し初穂ともいう）という風習があった。これは、海上船上で、初穂（賽銭）を出し合い、樽に詰めて金毘羅大権現と書いた幟を</p>

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容
		立てて流し、その樽を見つけた漁師は、福運の兆しと、これを本宮へ届けるというのである。
	<p>ももて祭り（三豊市、坂出市）</p> <p>※国指定重要無形民俗文化財 生里（三豊市）</p> <p>※香川県指定無形民俗文化財 櫃石島（坂出市）栗島、大浜（三豊市） 三豊市観光協会 TEL0875-56-9121</p> 	<p>ももて祭りは、春の初めに弓を射てその年の豊凶を占う素朴な祭りで、その中には農耕儀礼の古い信仰が見られる。現在では、厄年の男女の厄払い、大漁・豊作・海上安全を祈願して、毎年3月頃に行われている。</p> <p>櫃石島のももて祭りの的は、角型の白紙に丸印を描いており、弓射がすべて終わってから射子たちが村中を真言を唱えながら巡ると、村の中の厄が追い払われると信じられている。</p>
	<p>与島・櫃石の盆踊り（坂出市）</p> <p>※記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財</p> <p>与島連合自治会 櫃石盆踊り保存会</p>  <p>URL : <a href="http://www.47news.jp/localnews/kagawa/2011/08/post_20110812104953.html">http://www.47news.jp/localnews/kagawa/2011/08/post_20110812104953.html</a></p>	<p>瀬戸大橋の架かる櫃石島や与島で、盆に行われる新仏供養のための盆踊り。新仏の燈籠を盆踊りが行われる会場の櫓につるし、その年亡くなった新仏の家族や親類縁者が、位牌を包んだ風呂敷を代わるがわる背負いながら踊る。盆踊りは8月14日に行われている。</p> <p>島から離れた人も、この盆踊りの時には、亡くなった新仏の位牌や燈籠を持って帰り、踊ってあげる人も少なくなく、今も続けられている。しかし、櫓の上で島に古くから伝わる口説きと呼ばれる唄を歌える人がほとんどいなくなり、ゆったりしたテンポで踊られる供養のための盆踊りが、いつまで続けられるかは不透明である。位牌を背負う盆踊りについては、広島県や愛媛県の島嶼部にも点在している。</p>

**備 後 灘**

府県名	海文化（伝統行事名）	伝統行事の内容